

式 辞

春の麗らかな陽差しを受け、春風が心地よい今日の佳き日に、多くのご来賓の皆様のご臨席のもと、ご入学される新入生の保護者の皆様をお迎えし、茨城県立取手第一高等学校の平成30年度入学式を挙行できますことは、私たち教職員一同にとってこの上ない慶びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました240名の新入生の皆さん。ご入学、おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長された我が子の晴れ姿をご覧になり、さぞや頼もしく感じておられることと存じます。心からお慶び申し上げます。

高校生としての第一歩を踏み出す日に当たり、本校教職員を代表いたしまして、新入生の皆さんに、お祝いと激励の言葉を申し上げたいと思います。

皆さんは、本校を志望校に選び、思い思いの希望を胸に、本日、晴れて本校の生徒となりました。先月3月14日の合格発表では、自分の受験番号を見付け、喜びに胸躍らせたことと思います。皆さんのこれまでの努力に敬意を表しますとともに、教職員・在校生一同、皆さんのご入学を心から祝福し、歓迎いたします。

本日の感激は、皆さんの努力とともに、皆さんを今日まで育て励ましてくださった保護者や中学校の先生など多くの方々のお陰でもあります。これらのご恩に対して「感謝」の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

さて、本校は、大正11年に創立し、今年で創立96年目を迎えます。19,000人を超える各方面で活躍している卒業生を輩出し、平成十五年度に実施した総合学科への改編後は、着実に進学実績を伸ばしています。今まさに上り調子である取手第一高等学校の創立九十六年目の歴史を、これから皆さんと一緒に創りたいと思います。

そこで、本校での高校生活のスタートに当たり、私から皆さんに、願っておきたいことがあります。

まず1点目ですが、皆さんには、「社会の役に立つ人材」になれるよう、勉学はもとより、部活動や委員会活動、地域貢献活動など何事にも積極的に取り組むことをお願いします。

本校の校訓は「至誠 醇厚 自彊」です。真心をこめ、礼儀正しく、心身を鍛える。まさに人としての在り方、生き方を指し示すものと考えます。この校訓を、時々思い出して下さい。勉学、部活動などに励むことで、先輩が

築き残してくれた伝統を受け継ぎ、心に抱く目標を達成することができると思います。

2点目は、小さくてもいいですから「心に灯火（ともしび）を灯す」ということです。

私の好きな言葉に「Where there's a will, there's a way.」というものがあります。

「意志あるところ 道は開ける」という意味ですが、まずは、小さくてもいいですから心に灯火を灯すことです。この言葉を胸に刻んで、今後の夢や目標を追いかけてほしいと思います。

本校には、取一精神「力耕吾を欺かず」という言葉があります。これは、中国の詩人、陶淵明の言葉ですが、「力耕」、すなわち田畑を一生懸命耕すこと、物事に真剣に取り組むことは、「吾を欺かず」、自分にきちん結果が返ってくるということを表しています。

楽聖ベートーヴェンは、「努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功する者は皆努力している。」という言葉を残しています。この言葉と同じように、取一精神「力耕吾を欺かず」は、努力しなければ得るものなし、ということをお教えます。私は、この言葉を「自分プライド」と名付けようと思います。何を耕すかを見つけ、自分なりの矜持をもって物事に取り組むこと。皆さんには、今日から、心に灯火を灯し、「自分プライド」の実践を心がけてほしいと思います。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠にありがとうございます。これまでの義務教育9年間が終了し、入学試験を経て本校にご入学されましたことは、保護者の皆様にとって一つの区切りであり、本日のお慶びも一入ではないかと、推察申し上げます。本日から、職員一同、皆様の大切なお子様を大事にお預かりさせていただきますので、今後、保護者の皆様のご支援・ご協力を頂戴できますよう よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様方には、ご多忙の中、ご臨席を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

ご来賓の皆様、保護者の皆様のご支援を得ながら、入学生の皆さんが、本校において、充実した学校生活を送り、素晴らしい夢を見つけ、その夢を実現していくことを期待いたしまして、式辞といたします。

平成30年 4月9日

茨城県立取手第一高等学校長 田村 和浩